

一頭でいる，ひとなつっこい野生イルカについて

- 福井県沿岸に一頭で出現し，海水浴客がケガを負う事例が3年間で約50例.
- 尾鷲市でも海水浴場にしばらく定着し，海水浴場の閉鎖などの措置を行った例も.
- 世界的にもこうした事例は多く報告されており，今後も日本中どこでも起こりうる.
- そのような状態にならないよう，「野生イルカを触ろうとしない・エサをあげない」を徹底

【概要】

野生のイルカが福井県沿岸に出現し，ここ3年間で多くの海水浴客にケガを負わせている。2020年にも野生のイルカが尾鷲市の海水浴場に居着き，海水浴場の閉鎖を余儀なくされた。このような事例は，最初期の人間とのやりとりをなくすことでリスクを低減できる。

【研究内容】

福井県では噛まれることによるケガが多く，尾鷲のイルカの観察も合わせると，イルカはイルカ同士のコミュニケーションをヒトに対して行っていると考えられる。海外での研究では，餌をあげる，継続的にイルカに触れることにより，イルカ・ヒト双方のケガや死亡事故につながる人が多いとされている。本2例でもそのようなヒトとの「一線を超えた」やりとりが示唆されており，「野生イルカを触ろうとしない・エサをあげない」を徹底することでこうした事例を減らすことができる。各ステークホルダーと協力し，このことをきちんと説明していきたい。

【今後の展望】

福井のイルカに関しては，来年の出現もあると考え，基本的な対処（イルカが出現したら，すぐに海水浴客を陸にあげる）の他，イルカの出現を早期発見できるようなシステムの研究に取り組む


【用語解説】

一頭でいる，ひとなつっこいイルカ：海外の論文で使用されている” lone, sociable dolphin” の日本語訳。



図. 尾鷲市の海水浴場に出現した，一頭でいるひとなつっこい野生イルカ

<本件に関するお問合せ>
三重大学鯨類研究センター 森阪教授
TEL: 059-231-6975
E-mail: chaka@bio.mie-u.ac.jp



一頭でいる，ひとなつっこい
野生イルカについて

三重大学鯨類研究センター / 生物資源学研究科鯨類学研究室

森阪 匡通

福井県の海水浴場 | 3年で約50例のケガ

- 2022年から福井県の海水浴場に出現し，海水浴客を噛む
- おそらくミナミハンドウイルカ
- オス（若い可能性）



2024/7/22（月）NHK福井放送局

2024年(令和6年)9月15日(日)

好奇心イルカ 危険な遊び

福井、3年で53人けが 同一個体が

手かまれ20針超縫う / 体当たりで肋骨骨折

今年、遊泳者がイルカにかまれるなどした主な場所

白木海水浴場、立石岬の沖合、水島海水浴場、手ノ浦海水浴場、竹波海水浴場、水晶浜海水浴場、美浜町、敦賀市、福井市、滋賀県

全国から海水浴客が集まる福井県の沿岸で、過去3年間に少なくとも53人が野生イルカにかまれるなどして負傷したことが、福井県警や敦賀海上保安部への取材でわかった。専門家は、背びれの傷などから人なれた同一個体の可能性が高いとみている。(東京直知)

8月14日午後6時、福井県美浜町の水晶浜。岡田雅さん(23)は、友人の五嶋琢磨さん(23)と静岡県から海水浴に来た。岸から15分、水深2メートル、背泳ぎしていた岡田さんの右脇腹に何かかぶつかった。水中に背びれが見えた。体長3メートル近いイルカだ。足は底に着かず、空回りした。イルカは近くの五嶋さんの両手をかみ、5針縫うけがを負わせた。岡田さんは浜に向かって叫んだ。「助けて下さい」。イルカの頭をはたく、噴気孔から潮を吹き、のしかかっていた。岸まで30秒もがいて逃げた。別の男性(23)も手首やひじをかまれた。

こうした被害はどれくらいあるのか。朝日新聞は県警や海保の協力を得て、3人がイルカにかまれた現場の様子を動画で見られます

イルカから離れようと懸命に泳ぐ岡田雅さん(奥)と救助に向かう人々(遊泳者提供)

動画

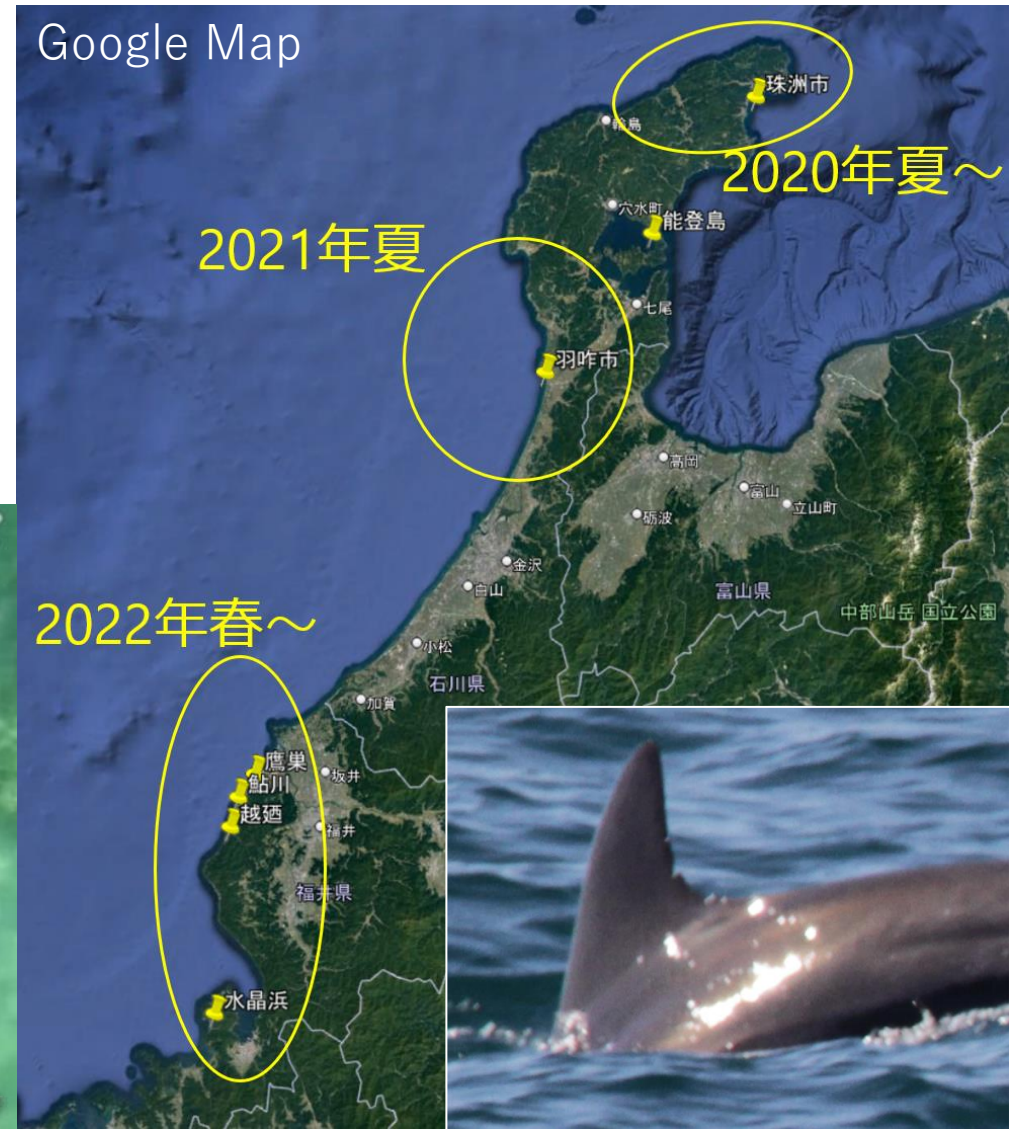
発生日	場所	負傷者	状況
22年 8月6日	越前海水浴場(福井市)	福井県の男性(70)	孫に近づいてきたので、殴ったり蹴ったりして追い払おうとして両手をかまれた
23年 7月16日	水晶浜海水浴場(福井県美浜町)	岐阜県の男性(62)	家族と遊泳中、岸から5メートル地点で体当たりされ肋骨を複数骨折、両手をかまれた
23年 8月1日	鷹巣海水浴場(福井市)脇の岩場	富山県の男性(26)	なでた後、離れようとしたら左手や右足をかまれ、15針縫うけが
24年 7月26日	竹波海水浴場(福井県美浜町)	愛知県の男性(21)	イルカに気づき逃げたが、後に陸に戻ろうとした際にかまれ、左手に全治2週間のけが
24年 8月3日	手ノ浦海水浴場(福井県敦賀市)	三重県の男性(10)	水深約70メートルの浅瀬にいた時、近づいてきたイルカにかまれ、右手を20針以上縫うけが

単独で泳ぎ、人に近づく野生イルカは2022年6月、福井県越前町、遊泳者提供

2024/9/15（日）朝日新聞

福井県の海水浴場 | ケガの種類と移動

- 噛まれることによるケガが多い
- 2023年7月にはイルカもケガ
- 2020年ごろ石川県珠洲市で見られ、2022年福井に移動か。

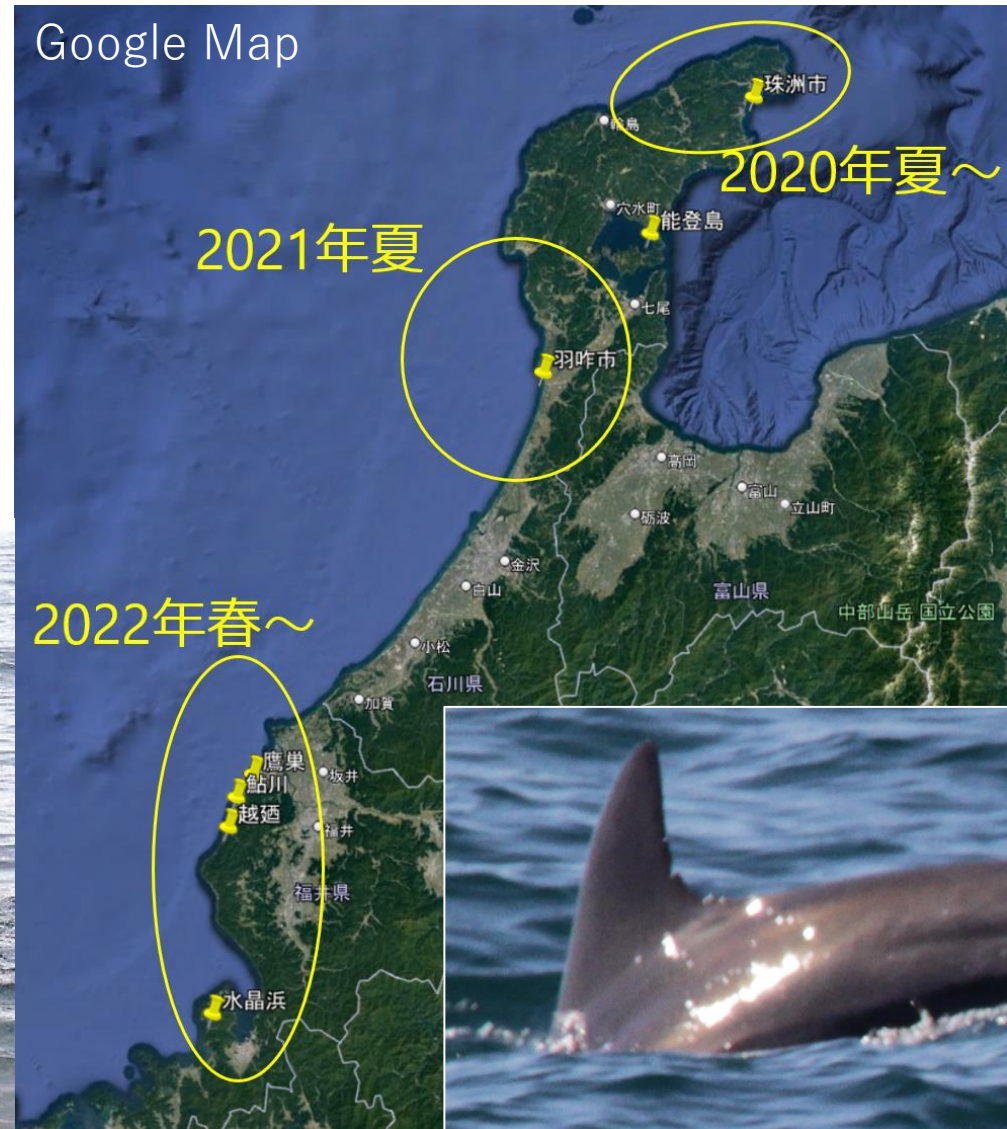


福井県の海水浴場 | ケガの種類と移動

- 噛まれることによるケガが多い
- 2023年7月にはイルカもケガ
- 2020年ごろ石川県珠洲市で見られ、
2022年福井に移動か。
→ 人との接触多数あった可能性高い

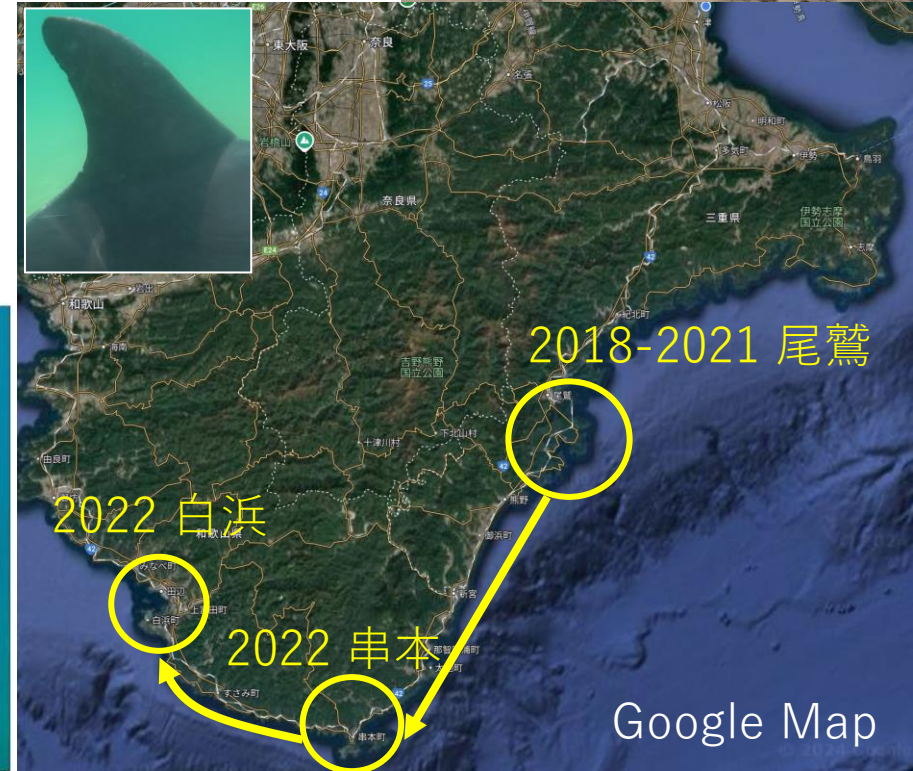
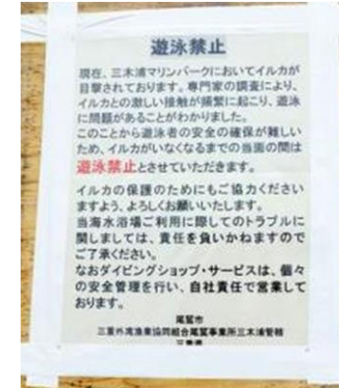


@羽咋市 北國新聞 (2021年8月18日)



尾鷲市の海水浴場 | ケガなし

- 2020年7月ごろ尾鷲市の海水浴場に野生イルカのオス1頭定着
→ 海水浴場遊泳禁止 (2020-22年)
- 行動はイルカのオスとして一般的ケガをさせた事例はない
- 【低確度情報】 魚をあげていた / 若齢



尾鷲市の海水浴場 | 提言

1頭でいる、ひとなつっこいイルカ (solitary-sociable dolphins) について

この夏、三重県尾鷲市の三木浦や三木里の海岸で、ダイバーや海水浴客に近寄ってきて、時には触ったりぶつかったりする 1頭のイルカが確認されています。このような事例はそれほど多くはありませんが、海外で報告があります。その Nunny & Simmonds (2019)の報告と、先日行った三木浦での調査をもとに、以下2点を提案します。

* 遊泳者に危険がおよぶリスクがあるため、イルカがいるときには遊泳を控える。

* 遊泳を控えない場合、「イルカに触れようとしない、餌をあげない」を徹底し、そうした行為を監視する監視員を置くこと。

以下、詳細な理由と提案を記します。

一頭でいる，ひとなつっこいイルカ

海外でも多く報告あり | lone, sociable dolphin

- 1950-2022で135頭（26か国47か所）の一頭でいるひとなつっこいイルカの報告
- ハンドウイルカ属が最多（99頭）
- 38 % でイルカによってヒトがケガ
→ ブラジルでは死亡事故
- 38 % の場所で餌を与えている

Carzon et al. (2023)

→ レアなことではなく，日本でもさらに別の個体がやってくる可能性もある



ステージに分けられる | 一頭でいる, ひとなつっこいイルカ lone, sociable dolphin

- だいたい決まったステージで人とイルカの関係が移行
 - 福井：Stage 4
 - 尾鷲：Stage 3
- このステージの進行が, 若い個体, エサをもらっている・ずっと触られる経験をしていると早まる

(Stage 0)	イルカがいるという報告
Stage 1	あるエリアに定着. 漁船などを追うが, 人には近寄らない
Stage 2	常にボートを追い, 船首波に乗るなどする. 漁具などを調べる行動. 人が近寄っても, イルカは水中ではまだ人にはあまり近寄らない
Stage 3	人と近くで泳ぎ始める. 人が触ったり, 背びれを持って泳ぐことを許す. 空中行動多い.
Stage 4	多くの海水浴客が来る. 誰でも触らせるが, 人に対し優位性を示す攻撃/性行動が始まる.
(Stage 5)	他個体との一緒に暮らしに戻る



はじめに食い止める

一頭でいる, ひとなつっこいイルカ
lone, sociable dolphin

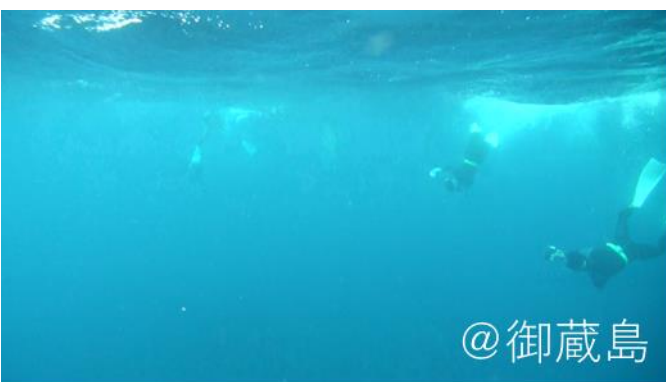
- 野生イルカを触ろうとしない
- エサをあげない

水族館, メディアなど様々なステークホルダーとの連携

(Stage 0)	イルカがいるという報告
Stage 1	あるエリアに定着. 漁船などを追うが, 人には近寄らない
Stage 2	常にボートを追い, 船首波に乗るなどする. 漁具などを調べる行動. 人が近寄っても, イルカは水中ではまだ人にはあまり近寄らない
Stage 3	人と近くで泳ぎ始める. 人が触ったり, 背びれを持って泳ぐことを許す. 空中行動多い.
Stage 4	多くの海水浴客が来る. 誰でも触らせるが, 人に対し優位性を示す攻撃/性行動が始まる.
(Stage 5)	他個体との一緒に暮らしに戻る

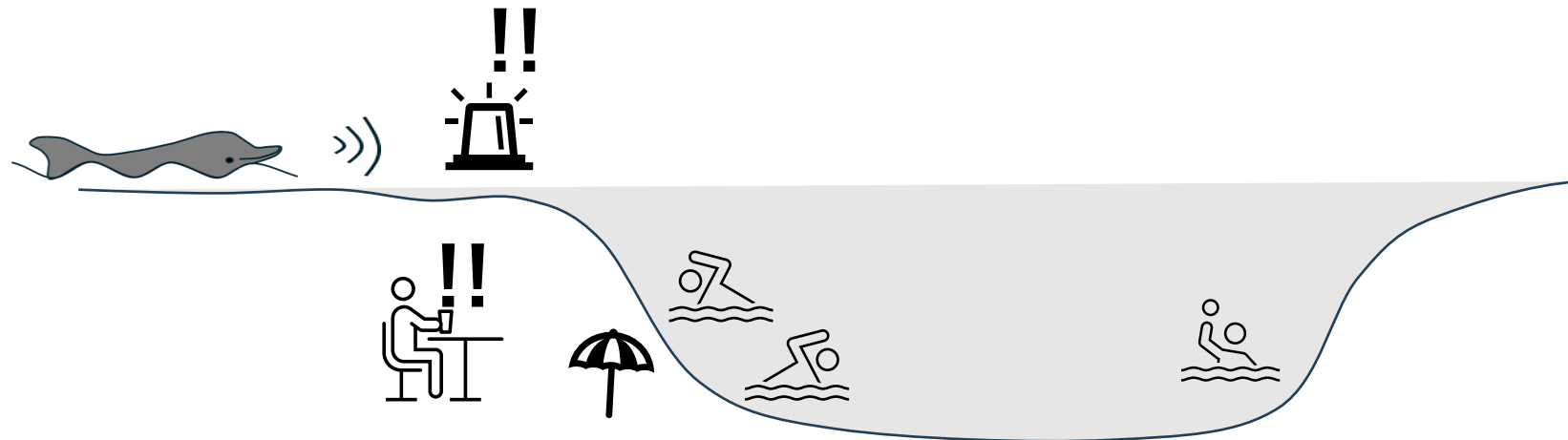


野生イルカと泳ぐ
「イルカスイム」
ルールとして最初期に設定
→ 人への危害の報告なし



今後の展望

- 福井のイルカに関しては、来年の出現もあると考え、基本的な対処（イルカが出現したら、すぐに海水浴客を陸にあげる）の他、イルカの出現を早期発見できるようなシステムの研究に取り組んでいきたい



© 敦賀海上保安部

